

<b>新幹線プレス</b> 	2024年3月26日	No.662
	発行者	伊藤一也
	編集者	教宣部
JR東海労新幹線地本		

# 新横浜駅営業第二の 要員配置増員を求めて緊急申し入れ

## 職場の問題解決のために闘うのが労働組合だ！

新横浜駅営業第二で、4月の年休申込みで希望日に年休が入らない事態が発生しました。営業第二の要員は4月から5名となり、現在は1名が病気休職のため現在員は4名です。しかし、8月には1名が退職するため3名となります。

新幹線地本は新横浜駅営業第二の要員実態から早急に要員を増やすよう昨年から再三に渡り要求してきました。しかし、会社は要員を増やすことはせず営業第二の業務量を削減することで対応し

てきました。その結果が今日の事態を招いたのであり、年休が入らない事態を作り出したのは全て会社の責任です。

会社は4月から要員が5名となることも、8月には4名となることも当然認識しています。しかし、会社がとった対策は要員増ではなく業務量の削減でした。

1月に2名が退職するため、昨年12月から車椅子業務の担務を営業第二から外し遺失業務だけとしました。そして、3月には2名が退職するため、泊まり勤務を廃止し日勤勤務としてきました。そして現在、日勤勤務で2名が出勤する体制としました。

現在員4名で日勤2名の業務体制では年休取得が困難になるのは当たり前であり、この事態になる事は会社も分かっています。にもかかわらず、会社は業務量の削減でその場しのぎの場当たり的な対応をしてきた結果が年休が入らない事態を作り出したのです。

この事態に対して、新幹線地本は本日、会社に対し早急に要員を増やすよう緊急申し入れを行いました。会社の愚策によって年休が入らない事態が作られたのであり、その責任を社員に転化する事を私たちは許しません。

新幹線地本には他労組組合員から職場で発生している問題について多くの声が届いています。その声に応え解決するために奮闘するのが労働組合です。新幹線地本は職場で発生している問題を解決するためにこれからも闘っていきます。



pixta.jp - 74175491